

ブロッコリーの経営安定のための取り組み

冬季の振興作物として導入された球磨地域のブロッコリー栽培は、平成24年度の15ha(74戸)をピークに減少傾向が続いています(H26, 11.6ha)。

その要因として、厳寒期の凍霜害のため作柄が安定せず、生産者の所得向上につながっていないことが上げられます。

このようなことからH26は生産が安定する作型に集中し、それに伴い出荷も11月中旬～12月上旬に集中しました。青果用露地野菜の短期出荷では価格変動の影響を受けやすく、経営的リスクが懸念されますが、H26産は出荷ピーク時に市場価格の底値にあたり、大変厳しい状況でした。

近年3カ年の価格動向をみると安値が2週間以上継続することはなく、そのため、少なくとも1か月以上継続して出荷すれば最低限の経営安定につながると考えられます。そこで、球磨地域で導入可能(凍霜害回避、他経営品目との労力分配)な11月中旬～1月上旬のうち、1か月以上出荷する作型及び品種を確立するため、展示ほを設け検討しています。9月中旬に定植したブロッコリーは順調に生育し、収穫は12月上旬～1月上旬を計画しています。

球磨のブロッコリーの振興には、稼げる品目としての魅力向上が必須です。農業普及・振興課では所得向上につながるよう改善し、ブロッコリーの生産振興につなげたいと考えています。



(展示ほ設置：定植は9月中旬)



(11月中旬の生育状況)